

# 論理的思考

## 目次

— 認識の三段階連関理論を踏まえて「論理的思考」の能力を育めたい —

赤十字看護管理者研修Ⅱ

担当 佐野和展

2012.10.23

### 1 認識の論理 No. 5

- (1) 認識とは何か
- (2) 認識論とは何か
- (3) 認識の三段階とは何か

### 2

思惟能力  
きまかへ

認識の「のぼりあり」と「キツカケことば」

No. 6

- (1) 認識の発展する求女
- (2) 右を単純化した左女
- (3) のぼりあり
- (4) キツカケことば

### 3

三段階連関理論の「三段階」

No. 8

- (1) 世界の構造
- (2) 「認識」の世界
- (3) 基準は「抽象度」(II分離度・II対立度)
- (4) 三段階構造 (I-IIIの例)
- (5) (A-I-C)

No. 1

全面研究会に提出

2012.12.1

④ S実習生の「磁石授業」での「ほりかり」 No. 9

⑤ 可まふつカ匹ヤ一周の授業記録に於て認識相の読みとり No. 10

⑥ 科学の論理 (法則) No. 9

(1) 浮力の原理

(2) 大地の変化

(3) 植物のはたらき

⑦ 論理的思考きレベルを考へる No. 11

(1) 論理とは

(2) 論理学とは

(3) 論理的思考とは

(4) きの筋道の三種

(5) 論理的思考の三段階

(6) 論理のつがいがたの例

⑧ ③の論理的思考 (II) 比喩的思考の例 No. 12

(1) 世話者並に病魔を撃つ

(2) 正法眼蔵「現成公案」より

(3) 風琴草傳「年來稽古餘々」より

9 論理の発見と表現 — 論理学の法則とコトワザ (弁証法コトワザ) NO. 13

- (1) 前提法則
- (2) 根本法則
- (3) 主要法則
- (4) 論理学とコトワザと生活

10 型はめ創作による論理の結晶 — 生活法則ならは道理 (創作コトワザ) NO. 14

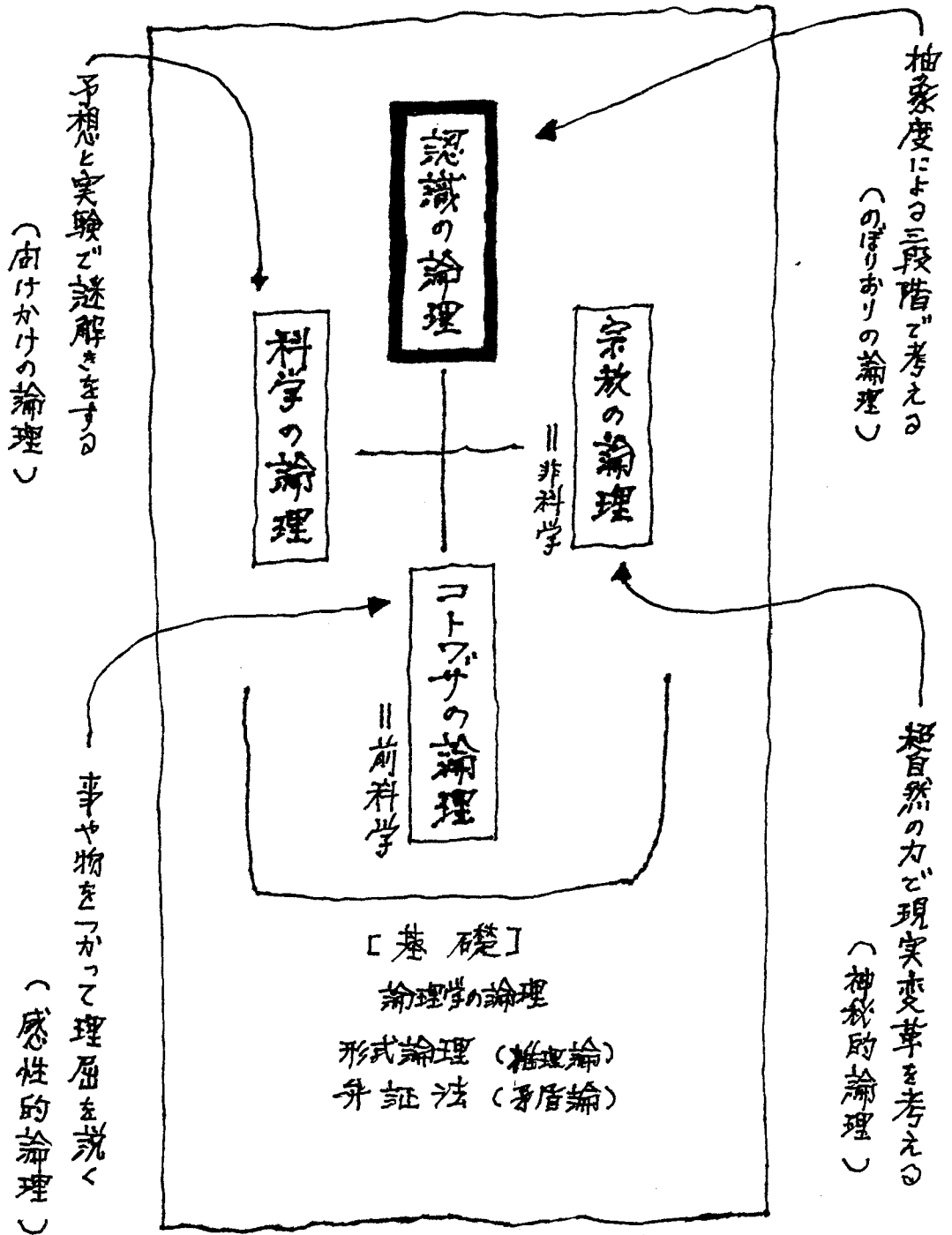
- (1) Oより△ (例三つ)
- (2) Oは一生の△ (例三つ)
- (3) Oと△は□ (例四つ)

11 コトワザの多様性と分類 NO. 15

- (1) 知識コトワザ
- (2) 思想コトワザ
- (3) 遊びコトワザ

12 三段式論文つくりの事例 (看護学生才一学年のばあい) NO. 16

- 私の人生とは何か (二例・標示したテーマ)
- 顔とは何か (二例・各人のちがちなテーマ)
- 命とは何か (二例・各人のちがちなテーマ)



① 認識の論理

(1) 認識上の何カ (cognition)

認識とは「頭の中」の事と云う。知識づくりの頭脳活動です。頭の中、すなわち対象(事物・空間)や表現(行動・表現)と、ききんと区別しなげればいけません。ききんは、「認識」と密接なつながりがありますが、対象はや「表現」とは、質が違つたのです。

つまり、次元を昇降しての事、下の図がとくと、「認識」は、中間の位置を占めておられます。

それだけだ、注目なはずの分野です。かたし、私たちが感じた事、認識(頭の中)だからです。



(2) 認識論とは何か (epistemology)

この「認識」の活動は目まぐるしくしてその中で、もう活動の法則性も明らかになるのが「認識論」です。

別まらしますと、「認識」の活動、すなわち頭の中の動きの「構造」(「ききんレベル」と「表現」)の作りかたや「表現」の構造を見直さうとしようわけです。

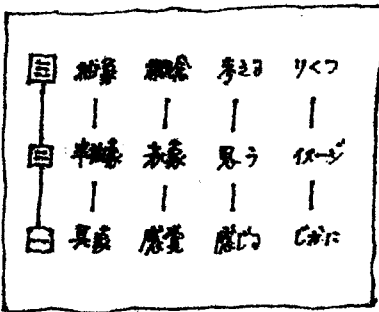
もっともききんは、対象より「知識」を多くとらうと、する仕事です。また、「表現」の心を、探る、と、する仕事です。

(3) 認識の三段階とは何か

認識の活動、それにはレベルが存在します。

そこで「抽象度」というもの、ない(「表現」)によって、レベルづけしたのが、「認識」の三段階です。下の図が、その一例です。

それ作、パンプンと区別して、はなしたはず、実世界にあり、その「表現」のありを問題にして、その「表現」を明らかにします。区別と表現は、その「表現」です。すなわち、その「表現」を、その「表現」です。また、その「表現」を、その「表現」です。また、その「表現」を、その「表現」です。



補説

抽象度による三段階

① 感思考タイプの三段階

目 — 目 — 目

考える — 思う — 感じる

リクフ — たとえ — きもち

概念 — 表象 — 感覚

法則 — コトワザ — 経験

科学 — 前科学 — 非科学

② 正反合タイプの三段階

目 — 目 — 目

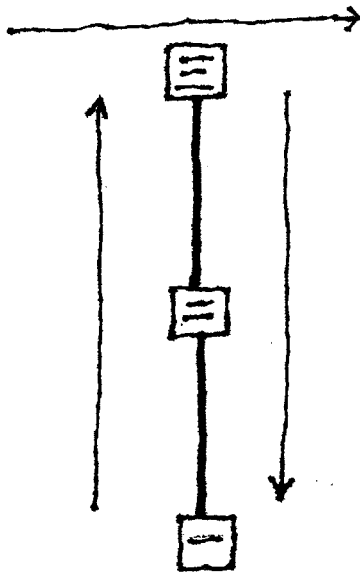
合 — 反 — 正

総合 — 分析 — 感受

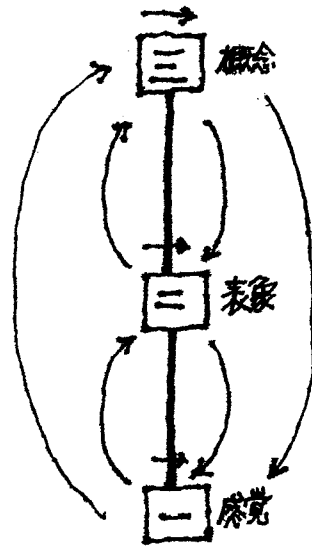
本質 — 構造 — 収集

理性 — 悟性 — 感性

(2) 右き単純化した姿



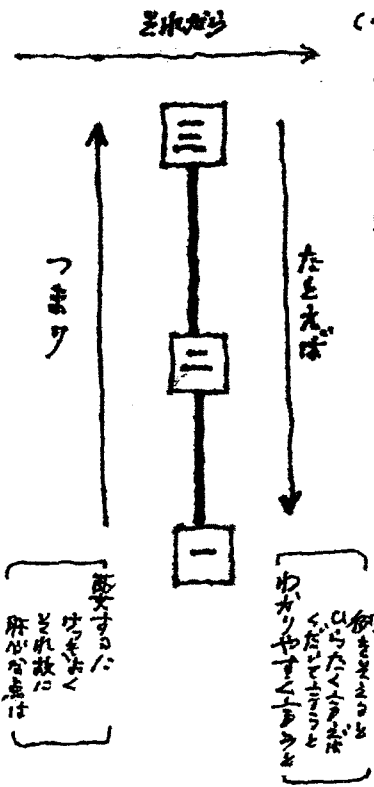
(1) 認識の発展する姿



2  
思考能力  
を高める

認識の「のぼりあり」と「キツカケことば」

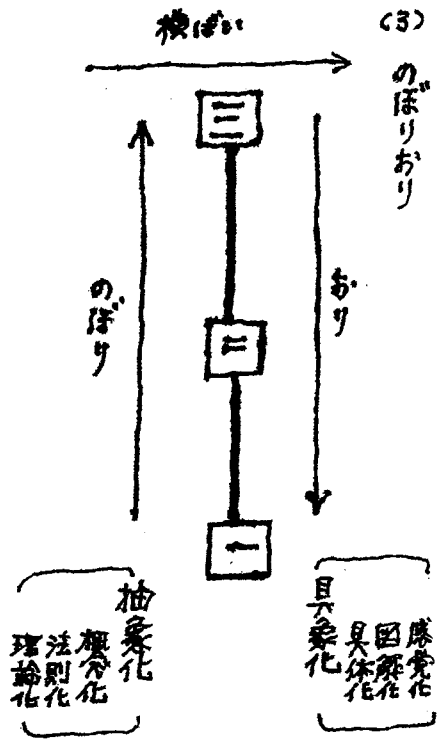
(4) キツカケことば



要するに  
つまみア  
と取敢は  
所定の意は

例をきよくと  
ひらたくて  
くだらなく  
わかりやすくと

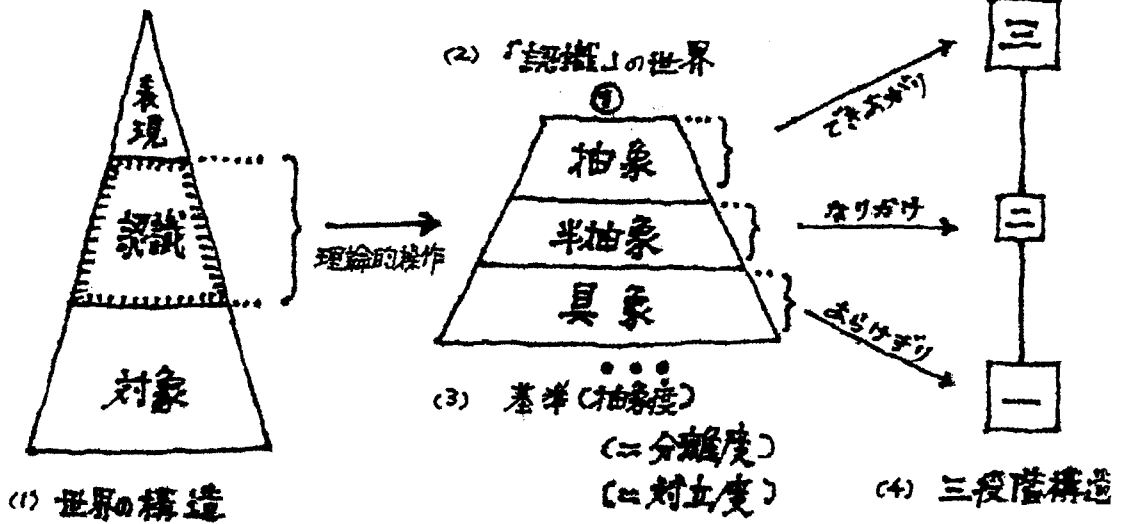
(3) のぼりあり



抽象化  
概念化  
法則化  
理論化

感覚化  
図解化  
具体化  
具象化

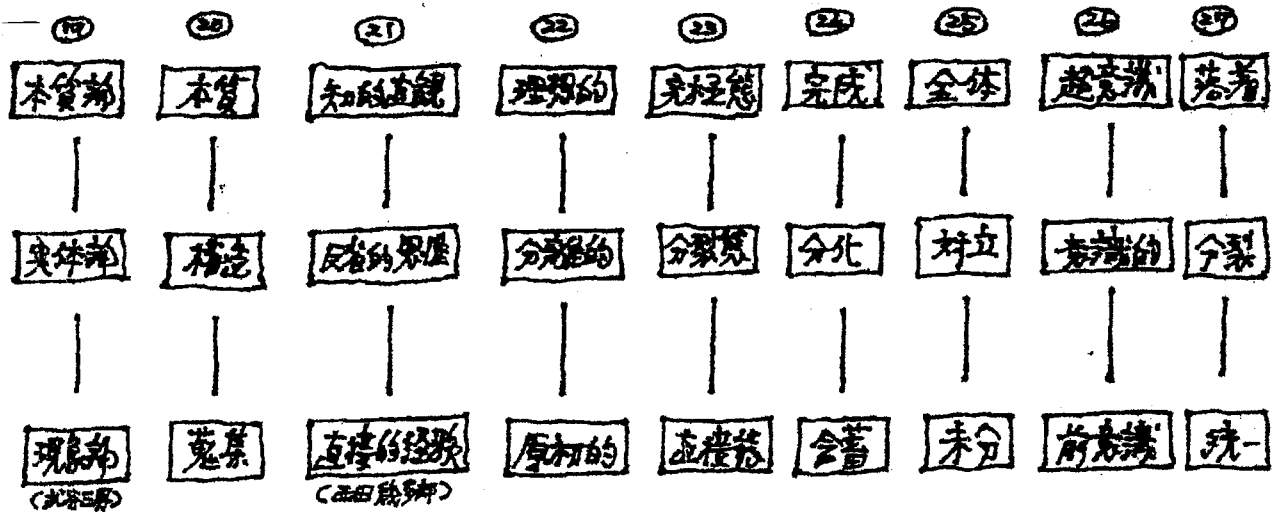
No. 7 ③ 三段階遠慮理論の「三段階」



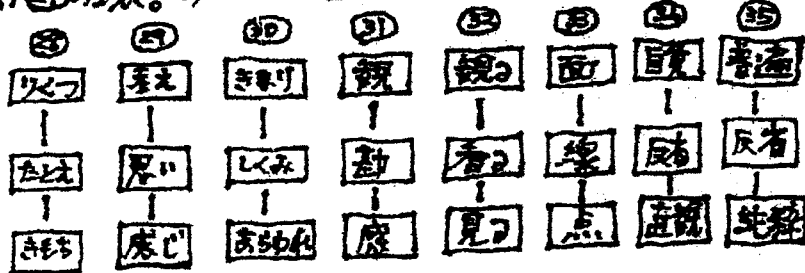
②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
本格	結実	概略	考訂	普遍	法則	論理	母	理論
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
過渡	成長	表象	思ひ	特殊	コトワ	成性的論理	眼母	比喩
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
素材	萌芽	感覺	感心	個別	経験	感性	眼母	体感

⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
合	即対自	克服	綜合	合一	大統一	理性
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
反	対自	対立	反立	分化	分裂	怪性
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
正	即自	安定	定立	粉化	統一	感性

Annotations: アンノウチ・ズ・ツカヒ (above 12), ズ・ル・ツカヒ (above 13), アン・ツカヒ (above 14), (カント) (below 17)



(H) ②⑦の終末。(次の如く、種々に分れるが、各も個性的なものである)



(5) 注

- (A) 2つであれば——対概念 (または、対コトバ。例: 左右・上下・真否など)
- (B) 3つ以上なら——組概念 (または組コトバ。例: 正反合・対象認識表現  
・起承転結・地水火風空など)
- (C) 段階的区別は——「よい・わるい」の区別ではない。性格のちがいである。
- (D) 図解・図示・図面のもつ長所と短所——長所は全体がつかめること。  
短所は、割り切り過ぎること。
- (E) 上記の①～を全部覚える必要はない。——自分のハダにあつて好きな、  
一系列を暗記して使いこなすこと
- (F) 抽象—半抽象—具象、の中の傍線は系列のことであり、略して「系」といいならわす。  
今の例では、これを「抽象」の系という。
- (G) 組概念には漢語が多いから、今後はなるべく「大和言葉」で、わかりやすくて的確なのを見つけない。また作り上げたい。





『まさつ力』の1問の授業記録にみる認識相の読みとり  
 ◎その特徴の裏づけとなる根拠の、認識相的的分析

【着眼点】

- ① 図の項にあるのは、教科書にも「重力の発生」が存在すること
- ② 図の項はすべて、未熟な思考の典型。(子どもは、この力を認めるものだ。大人は、図の概念・理及に価値を置き過ぎて、図を重視する、もうまがたしやすい。大人はここまわらぬ。)

概念  
(内容)

・まさつ力だけではない  
 ・まさつ力 ⊕ 地球の引力  
 ・まさつ力 ⊕ 引力 ⊕ まさつ力  
 (この図は教科書にも、図中にある)  
 ・引力と同じくらい力  
 ・重さ(質量)はどこのでも変わらないから。

表象  
(イメージ)

- ・ありふれた状態が一般的だから。
- ・ありふれた状態だから。
- ・つぼみで考えて、接した面がこのような状態になっていると見えてくる。
- ・ぎざぎざがひたひただから。

感想  
(発言)

- 持ちあげるとより引っぱたり押し下りする方がラクだから。
- おはしさんなどが、ショッピングのとき、車についた運搬器を使っているから。
- 何となく。 ○ 丁半。
- そういふ感じがする。 ○ 天神様の言う通り。

論理的思考をレベルで考へる

(1) 論理とは「物道」のことです。

納得し合点するたぐいの、正しい思考を支える物や道というわけですが。

ただただ「考へ方」といってもよいでしょう。

その考へ方の「方」すなわち特有の型や形のことです。

人それぞれ考へ方には、そのうらむル構となつてハ、特有の型や形を保持しているものとす。

それが、その人の論理です。

感じ方や思ひ方、見方ややり方……の「方」には、きつこう特有の意味あひが存しているものとす。

(2) 論理学とは、正しい思ひ考の形式や法則を研究する学問とす。

これには、形式論理学や弁証法論理学などがあります。

せめて、その法則のいくつがを知つて、生活や学問づくりに、活用していきなすためのものとす。

(3) 論理的思考とは、物道を立てて考へることとす。

すなわち、老人の見つけこきた物道や新しい物道を発見して、ききをつかひこなしていくこととす。

(4) その物道には、三種が見られます。

● 既成のデキアイの論理

法則。コトワサ。規範、など。

● 自分自身が発見した論理

図式。体系表。発見した法則。創作の「方」など。

● 無意識に使つてゐる論理

気持の動き。しきバツ。慣性よく、とか。



9 論理の発見と表現

—— 論理学の法則とコトワザ (弁証法コトワザ)

(1) 前後法則

① 万物変化の法則

(スベテノ物ハ変化スル)

- ・ 月がむら雲花に風
- ・ 雨だれ石をうたげつ
- ・ 食すれば飽する
- ・ 月日変われば気も変わる
- ・ 驛の平八郎は内より出筋の
- ・ 女の心は猫の目
- ・ 男心と秋の空
- ・ 測り難きは人心
- ・ 諸行無常
- ・ 万物流転
- ・ 人間万事塞翁が馬
- ・ 滄桑の姿

② 万物連鎖の法則

(スベテノ物ハツナガッテイル)

- ・ 駕籠乗る人想ぐ入道のまじり糞糞糞
- ・ 大風が吹けば櫓屋が喜ぶ
- ・ 一文銭は鳴らぬ
- ・ 隣りの不幸ツルの味
- ・ 隣りの貧乏カモの味
- ・ 人の過ち我が都合わせ
- ・ 高産が落ちて利口が目立つ
- ・ 下手があつての上手が知りぬ
- ・ 袖すり合うも他生の縁
- ・ 同僚村面五百生
- ・ 一樹の陰二河の流れも他生の縁
- ・ 目に見えぬ赤い糸
- ・ 他人のものはよく見えて
- ・ 隣りの飯は白い

(2) 根本法則

③ 対立の統一の法則

(スベテノ物ハ矛盾ラセオウ)

- ・ 物つくりを免げ
- ・ こわし見だし
- ・ はヤソ物はすたリ物
- ・ 合わせ物は離れ物
- ・ 空き物は入れ物
- ・ 近道は遠道
- ・ 長所は短所
- ・ 一事が万事
- ・ 両極端は一致する
- ・ 海の水も見えよ
- ・ 海の水はくたリ遠
- ・ 会話は別水のはじり
- ・ 東方の極端は西方なり

主要法則

④ 量質の相互転化の法則

(量と質は互にバタガイニ転化シヤウ)

- 三人奇作は夫々の知見
- 三人奇作は師匠の出来
- 五人にして迷ラシクナシ
- 善の強きは善の強いの
- あまりの善は悪の強いの
- 可憐きあまのこ憐き百倍
- うさから出たまこと
- 善も悪も化は善悪を替る
- 下手は上手の善
- 習慣は身二の天性
- 固結は力なり
- 武藝などこそ立ッては武藝にまこと七がの

⑤ 対立物の相互浸透の法則

(対立する物もバタガイニ浸透シヤウ)

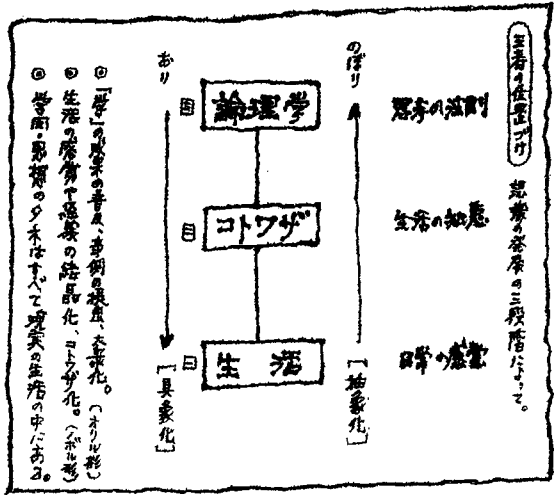
- 人生見之法を説け
- 夫等は徒兄弟等と似
- 持物は主た似
- 門前の心儀習の終を説く
- 習うより慣れぬ
- 上は做う下
- ひきぬかばらう
- 人より見ればわかシ直せ
- 善より好きなき赤之深し
- 火は銅い主た似
- 佐あは物
- 坊主僧サリや和歌家歌を説く
- 味は夫の味は味くなり
- い海様も主人は提う
- しらみは頭ばかりを説し

⑥ 否定の否定の法則

(否定の否定は肯定ニ至ル)

- 急がば遅れ
- 負けるが勝ち
- 雨降って地固まる
- 古きまた新しき知
- 隠すための隠さない
- 自然は服従することばかりで強服さす
- せめては事さしめんす
- 急がば遅れ
- 好事は今を知らん
- 悪人は上天下
- 在服のたみの屋敷
- 強者は弱に取良の方法

(4) 論理学とコトワザと生活



① 「理」の取捨の善悪、善例と悪例、本質化。(オウリル形)  
 ② 生活の階層や境界の結晶化、コトワザ化。(オウリル形)  
 ③ 論理・思想のタネは、すべて現実の生活の中にある。

10

型はめ創作による論理(生活法則背しは道理)の結晶

- (1) ○より△
- 物もちより善もち
  - 待つより用給
  - 記憶より記録
- (2) ○は一生の△
- 先世法は一生の文才
  - こころは(一生の)つれあい
  - 生きたることは一生のテーマ
- (3) ○と△は□
- 人情といヒフテヤは
  - 厚い情どよい
  - かんこ者と赤心は
  - まわりが見えない
  - 初老と納豆は
  - 物ばいがあるがよい
  - 知恵と時計は
  - 熟かしてこそ役に立つ

III コトワザの多様性と分類

◎前代人の知識教育と通教育を示す。  
◎分類は俯瞰を可能とし、載在性を超え、教材化を易くす。

(1) 知識コトワザ

① 自然知識コトワザ

- 雨柱が鳴くと雨
- 朝雨は女の腰まくり
- 朝もやの昼日和
- 羽ありが出ると田和
- 雨前がさ日がさし
- 朝雨にがさいらす
- 月夜の大霧
- 東がみなり雨降らす
- 夜の星は朝の霧
- のぼりが高く早と晴れ
- 夕は夕は天気朝は雨
- 夕は夕は鳴いて空をさ
- ふくろか鳴りば明日晴れ
- 山近く見れば雨
- もずの高鳴き七十五日

② 生産知識コトワザ

- 1) 生産的自然知識
  - 秋北に鎌をとり
  - 夏の夕ササキを放せ
  - はんが芋も
  - 地蔵大根
  - 芋切りは土用三日前
- 2) いわゆる生産知識
  - 池川は十日おけ七日
  - ゆがみ八石をく九石
  - 水見半作
  - あせつが半分
  - 麦の穂がら
  - 小豆は友の帯を嫌う
  - 桃栗三年柿八年
  - 田を作よりあせ作れ

③ 生活知識コトワザ

- 木六竹八堀十郎
- 尾崎谷江洲の上
- 神のまこころのま尻
- 帆がサ三里
- 船がサ三里物のみ三里
- うりにつめありつめにつめあり
- 二百すに半に日は通る
- 弁当半弁は箸が二本
- 二月は送げて走り
- 秋の日はつるべおとし
- 南竹やぶ殿隣り
- いぬは土蔵にたつみきり
- うぬいん舎は山屋かせ
- たまは親のたびをはき
- たまは姉はけせ、たは妹は

(2) 思想コトワザ (思考コトワザ)

- しまの皮も槍ではく
- 蚊のすねにやすらがる
- 雲をつかんで鼻をかむ
- お湯をわかして水にする
- いたちなき宙の船祭り
- がやの尻から天を見る

- 人のではうで法事する
- あとは野と山と山と
- 思ひ急が衆をこ通す
- 羽のつははなすのははらぬ
- 身がら出たさひ
- なくて七くせ

- 這っても黒豆
- 尻に目ぐすり
- ない名は呼ばぬ
- さの尻はまっか
- ひとり者のこころり飯み
- 鹿の角をはちがす

(3) 遊戯コトワザ

① 口遊(コトワザ)

- 落き桃の木山椒の木
- 袴袴もだらり猪俣だらり
- 袴袴もだらり穴だらり
- 袴袴もだらり猪のけつ
- 袴袴もが
- 袴袴もだらり(狸謀策)
- 八月の風でそば迷窓
- 猿の小便で木にがかる

- 師走のたてがらがた
- こたつの前であたりた
- がはらの猪が衆をばらめ
- ねこのおわんでトヤわん
- がたの小便でたえしたんだ
- 狐の木の下のねでこの上
- さまのりやでうちわてす村
- 死んだねこ呼んでんともいぬ

② いわゆる形容コトワザ

- 金時の次事見舞
- ちんがくしりをした
- 赤子の手をねじ
- かまきりの三番子
- どじろの尻に蛙が食いつく
- こよりの馬
- べんけいととがらし
- せんべいにかがうつち

(後編)

[コトワザは、想像性と実用性と鑑賞性の一致を示す。◎その点で教材化がしあがっている。◎その自体を人の受けとめる。]

(6頁-78)

(本巻32)

<教材はかくのごとくつくりたいはオモシロク・アツク・ナリヤアツクよに>

